

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 一宮市立中島小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

住所 〒 491-0362

愛知県一宮市萩原町西宮重字中光堂850

E-mail : nakasi-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website : http://www2.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310138

児童生徒数：男子 156名 女子 160名 合計 316名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「みんながえがおの中島小」を活動理念として、ESDを持続可能な社会の担い手を育む教育と捉えている。児童には、ESDの実践を通して、地域で守られ続けてきた自然環境や伝統文化に触れることで、この地域の未来について考え、関わるすることができる力を育成したいと考えた。

具体的には、環境や伝統文化を柱に、①豊かな自然環境を利用した活動、②伝統文化にふれる学習、③人権に関わる学習、④福祉に関わる学習を行った。

① 豊かな自然環境を利用した活動

本校には、中庭にビオトープや花壇がある。それらを利用して、できるだけ自然と親しむことができるようにしている。低学年児童は、虫を捕まえたり、池でメダカを捕まえたりして遊んでいる。高学年児童は、写生会の時に絵を描いたり、理科の時間に観察したりしている。また、外部講師を招いてトンボ教室やメダカ教室を行うなど、一年を通して自然とふれあっている。

② 伝統文化にふれる学習

6月には地域の方を招いて琴教室を開催した。実際に琴を借り、演奏するときの姿勢や作法、音の出し方などを教えていただいた。終盤にはどの児童も「さくら」を演奏するところまで上達することができ、とても喜んでいました。目で見たり聞いたりするだけでなく、実際にふれるということがどれだけ貴重な体験かがわかる教室であった。また、11月の学校公開では、多くの保護者や地域の方の前で披露することができた。

③ 人権に関わる学習

毎年の人権週間に合わせて、人権教室を開催した。4名の人権擁護委員をお招きし、講話や朗読をしていただいた。どの児童も真剣なまなざしで話を聞くことができた。また、道徳の時間には、生命や人権を題材にした資料を扱い、話し合いや議論を通して、生命の尊さについて深く考えることができた。

④ 福祉に関わる学習

11月に6年生を対象に福祉実践教室をおこなった。社会福祉協議会の方に話をいただいたり、高齢者の疑似体験をおこなったりした。普段は当たり前のようにできていることが、高齢者の立場になるとできなくなることや、手話や点字の体験を通して、コミュニケーションの取り方などを学ぶことができた。



① 生き物教室の写真



② 琴教室の写真



③ 人権教室の写真



④ 福祉実践教室の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程に学習や活動を組み入れておこなった。しかし、ESDの観点から活動を捉えなおしたり計画を練り直したりすることはなく、従来おこなってきた活動を行うことが多かった。
指導内容については、人権に関する学習について、国語や社会、総合的な学習の時間、道徳の時間などを絡ませて横断的に指導計画を立て、実践することができた。ただし、ひとつの教科やひとつの単元で終わってしまうことも多く、この点については、指導計画、方法の工夫改善に努めていきたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校の学校経営方針に、ユネスコスクールとして、環境・平和・人権・国際・防災などの現代社会への問題へ取り組むことを明記し、全職員が活動に取り組むことにしている。児童も児童会役員が所属する代表委員会が人権の問題に取り組んでいる。また、飼育栽培委員会がビオトープの整備をしたり、環境緑化委員会がエコスクール活動を中心にした環境問題を考えた実践をしたりするなど全校体制で取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の反省は、その都度行うようにしている。その反省がユネスコスクールとしての質の向上のためとは言えず、行事の反省になってしまっているのが現状である。今後は、行事の反省の中に、ユネスコスクールとしての観点も加味して評価、反省をしていかなければならないと考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内での活動にとどまり、外部に発信することはなかったもので、今後は学校のホームページで公開するなど、多くの方に活動を知っていただけるよう工夫していきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

環境問題に取り組む学習では、「特定非営利活動法人 トンボと水辺環境研究所」理事長の川口邦彦氏をお招きし、トンボ教室や学校のプールで行うヤゴ救出活動、メダカ教室など多くの実践を試みた。また、琴教室や福祉実践教室でも市内の方をお招きし、実践を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今のところ、できていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

児童にとっては、知識だけでなく実際にふれるという体験活動を通して、生き物に対する興味や環境問題に対する関心が高まったように思う。実践後も自ら中庭で生き物を探す児童や、紙のリサイクルやペットボトルのキャップ集めなど、自主的に行う児童が多くいた。また、総合学習の発表会で、環境問題や食糧自給率の問題などをテーマにして発表する児童もいたので、これもESDの活動の効果だと考えている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

基本的に今年度と大きな変更はない。総合的な学習や道徳、社会や理科などの教科と学年、学校の行事を関連付けて、取り組んでいきたい。